

5:21 昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。

5:23 だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、

5:24 供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。

5:25 あなたを告訴する者とは、あなたが彼といっしょに途中にある間に早く仲良くなりなさい。そうでないと、告訴する者は、あなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡して、あなたはついに牢に入れられることとなります。

5:26 まことに、あなたに告げます。あなたは最後の一コドラントを支払うまでは、そこから出ては来られません。

5:27 『姦淫してはならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:28 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。

5:29 もし、右の目が、あなたをつまづかせるなら、えぐり出して、捨ててしまいなさい。からだの一部を失っても、からだ全体ゲヘナに投げ込まれるよりは、よいからです。

5:30 もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切って、捨ててしまいなさい。からだの一部を失っても、からだ全体ゲヘナに落ちるよりは、よいからです。

5:31 また『だれでも、妻を離別する者は、妻に離婚状を与えよ』とされています。

5:32 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれであっても、不貞以外の理由で妻を離別する者は、妻に姦淫を犯させるのです。また、だれでも、離別された女と結婚すれば、姦淫を犯すのです。

5:33 さらにまた、昔の人々に、『偽りの誓いを立ててはならない。あなたの誓ったことを主に果たせ』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。

5:34 しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。すなわち、天をさして誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。

5:35 地をさして誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムをさして誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。

5:36 あなたの頭をさして誓ってもいけません。あなたは、一本の髪の毛すら、白くも黒くもできないからです。

5:37 だから、あなたがたは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』とだけ言いなさい。それ以上のことは悪いことです。

5:38 『目には目で、歯には歯で』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:39 しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。

5:40 あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着もやりなさい。

5:41 あなたに一ミリオン行けと強いるような者とは、いっしょに二ミリオン行きなさい。

5:42 求める者には与え、借りようとする者は断らないようにしなさい。

5:43 『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。

5:45 それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。

5:46 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。

5:47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。異邦人でも同じことをするではありませんか。

5:48 だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。

はじめに

マタイ 5 : 1-20 の個所で、私たちはイエスによる大切な教えを学んできました。イエスの教えは 3 章分ありますが、もともとの福音書は章で区切られていなかったもので、ひとつの長い説教でした。これは、とても重要です。

イエスの説教のカギとなる言葉が、マタイ 5 : 17 に記されています。

マタイ 5:17 わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです。

ここでイエスは、旧約聖書の教えと新約聖書の教えを関連付けておられます。旧約の律法の教えと新約のイエスの教えをつなげて理解することは絶対不可欠です。

このつながりを理解していないと、福音のメッセージを正しく理解できません。

今日は、マタイ 5 : 21-48 を学びます。

21-48 節で、イエスはご自身がどのように旧約聖書を成就されるのか 6 つの例を挙げておられます。以下の個所にご注目ください。

21 節：「～と言われたのを、あなたがたは聞いています。」

27 節：「～と言われたのを、あなたがたは聞いています。」

31 節：「～と言われています。」

33 節：「～と言われていたのを、あなたがたは聞いています。」

38 節：「～と言われたのを、あなたがたは聞いています。」

43 節：「～と言われたのを、あなたがたは聞いています。」

これらは皆、イエスが福音に関する新約聖書の教えを旧約聖書とつなげておられる表現です。

これが、イエスが律法を成就するためにこられた 6 つの例です。

これらの例、またはたとえば、イエスの弟子の義がパリサイ人や律法学者の義に勝らなければならないことを説得力のある方法で示します。

これらの 6 つの例は、イエス・キリストの義なしに、神とその聖さの要求を満たすことは誰にもできないことをはっきりと教えてくれます。

今日はそれぞれの例を短く取り上げ、イエスが現代の私たちに教えようとしておられる実践的な教えを学んでいきましょう。

1. 21 節「人を殺してはならない。」—旧約の律法（出エジプト 20 : 13）

イエスは、殺人に関する旧約の律法を弟子たちに思い起こさせます。

そして、殺人を犯せばその行いをさばかれるとおっしゃいます。

殺人に対するさばきは、人が見聞きできることにのみ基づいています。

私たちは人間の目を見て、人間の判断でさばきます。

概して、人間の判断は律法的です。

人は規則を作り、規則違反する人を罰しようとしています。

一方、イエスはそうではありません。

イエスは、内側を見抜くレントゲンのような目でご覧になります。イエスのさばきは、人間の判断ではなく、永遠の判断によります。

殺人という犯罪の根底には、人間の心があります。

イエスは 22 節で、心の中で怒ったり、人を罵倒したりするのは、神の目には殺人と同罪だとおっしゃいます。

イエスが言っておられるのは、すべての罪が心の中の悪い思いから始まるということです。

心がきよければ、行動もきよくなるのです。

23-24 節で、他の信徒に対して悪い思いを心に抱いているなら、神を礼拝しに行く意味はないと、イエスは弟子たちに語られます。
互いに対して正しい思いを心に持ちなさいとイエスは命じておられます。
他のクリスチャンに対して、あなたはどんな思いを抱いていますか。
イエスは、私たちが父なる神と和解できるようになるために、十字架上で死んでくださいました。ですから、せめて信徒同士で和解することくらいはさせていただきます。
もちろん、イエスの愛が内側になれば、できないことです。
律法主義になるのは簡単です。心に良い思いがなくてもできるからです。
イエスはここで、神の御国に入りたいなら世の中の人たちとは違う心が必要だとおっしゃっているわけです。とくに、自分で善い行いをすれば神にじゅうぶん受け入れてもらえると考えていた人たちに向けて、こう語られました。

2. 27 節「姦淫してはならない」－旧約の律法（出エジプト 20 : 14）

イエスは今度は、姦淫に関する旧約の律法を引用されます。
おそらく、律法学者たちは話を聞いていて、自分たちをとて誇りに思っていたでしょう。彼らは殺人を犯したことはありませんでしたし、配偶者以外の女性と性的関係を持ったこともなかったからです。
しかしイエスは突然、多くの男性に罪の意識を感じさせることを口にされました。
「だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。」とおっしゃったのです。
心の中まで吟味されるわけですから、姦淫がまったく別のレベルの話になりました。現代の男性のほとんどが、これまでの人生でこの罪を犯したことがあると思います。つまり、ほとんどの男性が神から与えられたこの掟を破ったことがあるということです。神の律法を破ったことがあるのです。
女性を見て情欲を持たなくなるように目をめぐり出して捨てるというのは、ずいぶん極端に思えます。
イエスは、男性全員を盲目にしてしまうためにこう言われたのではありません。こうおっしゃったのは、心の中から出てくる罪の深刻さを示すためです。
心の中で罪を犯したとわかったとき、誰かに赦しを求めるべきです。
イエスは、私たちの心を変えるために来られました。それだけでなく、恵みと赦しを与えるためにも来られたのです。
恵みとは、イエスとその御業のおかげで神からいただく赦しです。これは、私たちの親切な行いや従順とは無関係です。
イエスは、律法を成就し、完成させるために来られました。
そして、人の心を変え、私たちの人生に恵みを注ぐために来られました。
人の心を変えられる律法はありません。

3. 結婚は神の目に聖なるものであり、拘束力がある。（31-32 節）

この個所で、イエスは当時のユダヤ人の文化において離婚が安易に行われていた状況を非難されます。
イエスはここで、男性が妻と離婚する唯一の理由は妻が性的に不貞を働いたときだと言われます。
これは、そういう状況で男性が妻と離婚しなければならないということではありません。むしろ、それが唯一離婚できる正当な理由だということです。
当時、男性は妻になんらかの不満を持つと、すぐに離婚状を渡して追い出しました。
イエスはそのような人たちに、そういった態度は間違っているし罪だとおっしゃいました。

4. 33-37 節－誓いを破る罪についてイエスが教えられる。（申命記 23 : 21-23）

旧約の律法は、誓うことを禁じていません。
しかし、律法学者やパリサイ人たちは、拘束力のある誓いに逃げ道をいくつも作っていました。

彼らは、規則を変えて、このように言いました。

「もしエルサレムや天、地、頭髪によって誓うなら、その約束を破ることができる。神に誓うと言ったときのみ、その誓いに効力がある。」

イエスは、誓いに拘束力を持たせたくないなら、一切誓うべきでないとおっしゃったのです。

神が誓いに関する決まりを造られたのです。私たちが作るものではありません。

私が警察官として働いていたころ、法廷で証言するときは、神によって誓いを立てなければなりませんでした。

「私の証言は全て真実であり、真実以外の何ものでもないことを、全能の神によって誓います。」というような内容でした。

現在ではこれは変わってしまいましたが、40年ほど前までは、法廷で証言する人は毎回、聖書に手を置いて誓わなければなりませんでした。

5. 38節—復讐に関する律法の理解についてイエスが教えられる。(出エジプト21:24、申命記19:21、レビ記24:20)

律法学者とパリサイ人は、この律法の教えを自分たちに都合の好いように曲解しました。

イエスは、「目には目。歯には歯。」という出エジプト21:24の言葉を引用されました。

これは、出エジプト21:12-27にある暴力事件に関する律法についての神の教えを踏まえて理解しなければなりません。

これらの律法は、法の正義のために与えられたものであり、暴力被害に対する個人的な復讐を正当化するものではありません。

律法学者とパリサイ人は神のみことばをねじ曲げて、自分たちの暴力行為の根拠としました。

これは罪であり、悪い心の思いから出たものです。

このような態度に対抗するイエスの教えは、敵に愛を示すというものでした。これは、イエスの愛が内側になれば不可能です。

口でどう言っても、心にイエスの愛がなければ、何の意味もありません。

私がロンドンで牧師だったときのことです。ある夏、子供向けの野外伝道活動を手伝っていると、腕っ節の強い女性に顔面をパンチされました。

痛くてそのまま倒れましたが、イエスの愛に圧倒されて、起き上がれませんでした。その女性に対して、深い愛情を感じたのです。

とは言え、もう片方の頬も殴ってくださいとは言いませんでした。

そのときはっきりと学んだのは、敵に嫌われ傷つけられても、イエスの愛が力強い証になり得るということです。

私は警察に一応届けを出し、その女性は警察から注意を受けました。

私を殴ったことを女性は反省していると、警察官は言っていました。

女性は、「あの人が牧師だとわかっていたら殴らなかった」と言ったそうです。

6. イエスが本当の愛について教えられる。—レビ記19:18

最後の成就の例で、イエスはレビ記19:18に触れられます。

レビ記19:18 復讐してはならない。あなたの国の人々を恨んではならない。あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。わたしは【主】である。

また、申命記23:3-6についても言及なさいます。

申命記23:3-6

23:3 アモン人とモアブ人は【主】の集会に加わってはならない。その十代目の子孫さえ、決して、【主】の集会に、入ることはできない。

23:4 これは、あなたがたがエジプトから出て来た道中で、彼らがパンと水とをもってあなたがたを迎えず、あなたをのろうために、アラム・ナハライムのペトルからベオルの子バラムを雇ったからである。

23:5 しかし、あなたの神、【主】はバラムに耳を貸そうとはせず、かえってあなたの神、【主】は、あなたのために、のろいを祝福に変えられた。あなたの神、【主】は、あなたを愛しておられるからである。

23:6 あなたは一生、彼らのために決して平安も、しあわせも求めてはならない。

イエスは、アモン人とモアブ人が神の集会に加わってはならないという具体的なイスラエルの歴史上の出来事に触れておられます。

イエスがここで教えておられるのは、信徒たちが人間の愛以上に深い愛を持たなければならないということです。

自分を愛してくれる人を愛するのは簡単ですが、愛しにくい人を愛するのは難しいものです。クリスチャンだと言う人でも、愛しにくい人はいます。けれども、イエスにある本当の愛が現実に試されるのはこういう場面です。

まとめと適用

結論として、この個所のイエスの教えは、神が完全に聖なるお方であることを私たちに教えるためのものです。

人間の行いで神の要求と基準を満たすことはできません。

聖書は、「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」と語ります。

(ローマ 3 : 23)

人がどんな規則を作ったとしても、神のみことばを社会や文化に合わせるためにねじ曲げようとしても、実際に必要なのは、私たちの心が変わえられることです。

私たちの心は、生まれつき罪の性質を持ち合わせています。私たちが心を変えていただくことを望むなら、神から新しい性質をいただく必要があります。

その新しい性質を与えることができるのは、唯一イエスのみです。

私たちが自分の罪深さを認めるなら、イエスは私たちの心を変え、神の目に受け入れられるようにしてくださいます。

イエスはご自身の聖霊を私たちに送ってくださり、イエスの愛を知ることができるように助けてくださいます。また、私たちが聖霊にゆだねるなら、自然にはできない行いをさせてくださいます。

今日は聖餐式に与ります。

神の御前に罪を認め、神の愛と赦しを味わったことのある人は、パンとぶどう汁を受け取ってください。

もしまだなら、今日、神を受け入れてはどうでしょうか。